

第7回茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会会議録

- 1 会議の名称 第7回茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会
- 2 開催日時 平成30年10月25日(木)午後2時～午後3時30分
- 3 開催場所 水戸市役所 本庁舎前議会臨時庁舎
- 4 出席者 別紙「出席者名簿」のとおり
- 5 議 題
定住自立圏共生ビジョンに係る取組の実施状況について(2018年度上半期)
2019年度 定住自立圏共生ビジョンに係る取組について
- 6 会議資料の名称
資料1 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿
資料2 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョンに係る年間スケジュール
資料3 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョンに係る取組の実施状況について
(2018年度上半期)
資料4 2019年度 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョンに係る取組について

別紙 茨城県央地域定住自立圏共生ビジョンに係る取組に関する意見票
- 7 発言の内容
(事務局 資料に基づき説明)

【委員】

(来年度の環境分野の取組について)

省エネ的な取組は、国や県、学校や電力会社などで、長い間さんざん行ってきたので、この分野に予算や人材を投入するのはやめるべきと、第1期から再三申し上げてきた。意見が全く反映されていないのは、今まで参加させていただいた意味がないのかと、ちょっと遺憾に思う。

(産業振興分野について)

周遊観光に多くの予算を割いているが、誰に対するものなのか。予算は、各自治体の税金から捻出し、その後認められれば国の予算が振り分けられると聞いているが、国民の税金である。自治体の住民の税金を使い、国民の税金を使う中で、なぜいわゆる旅行会社のツアーのようなものに多額のお金を割くのか、定住自立に何の成果があるのか、疑問である。

(環境分野について)

いつも環境は後回しにされるが、我々がこうしてられるのは、環境があつてこそで、もっと地域住民の意識を上げなければいけない。現在も私たちは環境資源を食いつぶし、いろいろな物を壊して生活している。日本は、持っているキャパシティの6倍の自然資源を使いながら生活しており、5倍に当たるものは海外に依存して経済を成り立たせているが、これをシフトしなければ、いつか壊れる。自立にはサービスやおもてなしが必要なのですか。自立とは自分たちの足で立つことと考えると、旅行会社のようなことをやるより、環境に予算を割くべきである。原子力もそうであり、エネルギーはどうしたらいいのかとなった場合、エネルギーについての人材育成をしなければいけない。情報ばかり上手に話をする人に多額のお金を払うのではなく、実際に利用して、やっているところを見て、しっかりと技術や管理などをしていけるのではないかと、という検討ができる人を育てていかなければ、次のステージに移れない。それも含め、環境分野の考え方をもう一度見直してほしい。

(事業 No. 22 職員の能力向上に向けた研修会の合同開催及び相互参加について)

125万円の予算が割り当てられているが、公務員の研修を、税金で、定住自立圏の予算でやるものか、合点がいかない。やるのであれば何のためにこの研修をするのか、民間・第三セクターに委託するのではなく、職員が住民の前に立って講師になり得る人を育てるためならわかるが、この内容では果たしてそうなのかと、甚だ疑問である。

【執行機関】

定住自立圏の考え方の中では、事業 No. 16 エコライフチャレンジは住民の方々にも結構な反響をいただいております、取組の一つとして考えていただきたい。

他の環境分野ももう少し広げて手を付けていただきたいということについては、事業 No. 17 環境啓発イベントへの相互参加において、温暖化だけでなく生態系や自然環境などについても、他市町村と相互参加をすることで、理解や認識を深めていただきたい。また、企画サイドとも調整し、今後の方向について考えたい。

【執行機関】

定住自立圏の大きな目的に生活機能の確保と地域活性化があるが、産業振興分野は地域活性化の主な分野であると認識している。基本目標として、圏域全体の観光交流人口について、平成27年の1,900万人から平成33年の2,200万人に、約300万人増加させるという目標を立てている。周遊ツアーは、その一つの事業だが、皆様のご意見を踏まえながら成果・検証し、圏域の活力に繋がりたいと思う。

【執行機関】

人材育成分野の研修事業については、構成市町村の研修体制と研修の種類などを相互に補いながら実施するもので、今回は職員の能力向上ということで、相

互参加・合同開催の研修の計画をしている状況であるので、ご理解をいただきたい。

【委員】

(環境分野について)

現在、市町村で統括して行うイベントはないが、それぞれの市町村の環境フェアや産業祭の中でそれぞれの市町村の予算で行っている現状があるので、改めて定住自立圏の予算で新たなイベントを仕組むのは難しいと思うが、一一委員の意見は実現すれば素晴らしいことなので、今後、来年度に向けて、できる限り各市町村で協議していただき、共有できるような環境イベントなどを仕組んでいただけたらと思う。

(周遊観光の推進の事業について)

予算的に大きいですが、本年度も実施しており、それぞれ所管の部署があるので、旅行会社さんに丸投げということはないと思う。しかし、懇談会などで今年の成果についてしっかりと示していただかないと、次に続かない。

私は、この周遊観光と環境とを結びつけるような仕組みを作ってみてはどうかと思う。せっかく周遊しているので、食べて良いところだけではなく、環境分野のイベントに合わせた行程を組んでもらう。例えば茨城町のビオトープ事業やヒヌマイトトンボを復活させるイベント、水戸の千波湖の環境学習会など多々行っているの、そこに立ち寄っていただくような取組を行うことで、観光と環境が一緒になった予算の使い道があるのかと思う。予算の使い道についてももう少し協議してもらい、それぞれがWin-Winになるような使い方をお願いしたい。

【委員】

(2019年度に向けての意見)

成果について、数字というか量的に測るのが難しいのはわかるが、定住自立圏なので、質的のようなもので何か表すことができないか。例えば、ウォーキングなどを圏域内全体で、1年に1回でもいいので行ったとすると、健康、環境、観光(魅力の気づき)、公共交通に関連付けられるような気がする。例えば、定住自立圏内の人に限り、好きなコースをたどりながら、地元だけではなく定住自立圏内のことも気づいて見て歩く。最初はほとんど参加者はいないかもしれないが、今までとは違う、他の事業とは違うということが出てくるのでは。あと、その日はバスを増便し、1年に1回だけ、今まで走ってないようなところに公共バスを走らせれば、環境と公共交通と健康と魅力の気づき、あるいは人材育成などにも繋がるのではないかと思う。成果はすぐには望めないかもしれないが、ご検討いただければと考える。

(医療分野の取組について)

今後の取組予定で、11月18日に健康セミナーのイベントがあるが、定住自立圏をみんなで一緒に推進しようという視点で考えると、医療の中心から離れて

いるところで開催するのが大事なのではないかと思う。なぜ水戸になったのか、お聞きしたい。

また、参考資料①について、どのように解釈したらよいか。これには平成 29 年の患者数と構成比が載っているが、定住自立圏の概念に当てはめるとどのように解釈をしたらよいかわからない。ご説明いただきたい。

【執行機関】

健康セミナーの開催場所については、1 年目は水戸市が中心となり企画をするということで、水戸市にある茨城県健康プラザで開催した。今年度は、大学の先生を呼ぶこともあり、水戸市と繋がりがあるところ、母親が来やすい場所というところで選定した。来年度以降は、できれば構成市町村の中で、母と子が一緒に遊べるような施設での開催を検討したい。

参考資料①については、事業 No. 2 診療所運営支援事業で、水戸市休日夜間緊急診療所への運営経費について、休日夜間の診療所がない構成市町村から財政支援をいただく関係で、構成市町村の患者数等を参考として掲載した。

【座長】

来年度、新たにウォーキングのような催しをやればよいのではという意見があった。そのような新たな提言や、ご意見があれば積極的に発言していただければありがたい。

【委員】

(No. 1 診療所情報共有・啓発事業について)

適正受診の啓発のためのガイドブックをホームページで拝見したが、わかりやすく良くまとまっていると思った。現在、平成 29 年 12 月の配布から半年以上経過したが、その検証や、コンビニ受診がどの程度減少したという効果がわかれば教えていただきたい。

(No. 5 看護師等確保事業 病院見学バスツアーについて)

昨年度も募集定員に満たず、非常に少ない人数で行われたと記憶している。今回も各日 10 名の定員のところ、1 回目が 5 名、2 回目が 3 名であった。これは PR が足りないのか、内容に魅力がないのか。参加者が少ないのであれば、やり方を変えたほうがいいのかと思うが、どのような PR をしたのかを教えていただきたい。

【執行機関】

ガイドブックの配布によるコンビニ受診の減少があったかについて、アンケートでの検証などはしていないが、毎年まとめる休日夜間診療の実績で、緊急度の高い患者とそうではない患者の記録を取っており、そういった数字の減少は見られている。しかし、ガイドブックの成果かどうかは不確かなところである。

看護師の病院見学バスツアーは、申し込み時点で参加者は 2 回合わせて 12 名の応募があったが、急遽参加できなくなった方がおり、最終的には 1 回目に 5 名、2 回目に 3 名となった。募集方法は、茨城県看護協会と一緒に検討して進め

ており、看護協会に登録している方や復職セミナー等に参加している方にお声かけをしているが、参加人数が伸び悩んでいるので、見直しをしていきたい。

【委員】

(事業 No. 20 公共交通の維持・確保について)

高齢者向けに走らせているバスなのかわからないが、子供たちの交通手段がどんどん無くなっていく中、大変ありがたいと思う。ぜひ多くの路線を復活させることも考えていただくと、本当にありがたい。ただ、経費が1,500万円を超えるので、利用料金の収入を考えれば、1日8便4往復だと半分くらいの経費で行けそうな気がする。上手くやれば同じ経費で他の路線もできるのではという疑問もあるが、非常に素晴らしいことなので、ぜひ拡大をお願いしたい。

【執行機関】

地域公共交通分野の先行事業で実施している路線バス石塚－赤塚線は、城里町の中心地の石塚と水戸市赤塚を結んで運行しているものである。住民の足を確保する手段はいろいろあるが、この定住自立圏の取組では、水戸市と城里町を連絡する広域的な路線バスを運行するという発想で行っている。経費がかかるのご指摘は当然で、もともと民間のバス事業者様が維持できなくなった路線を引き継ぐ形で系統を改良して運行しているため、その赤字補填の意味合いでの経費負担となっている。昨年のご指摘があったが、1便あたり平均3.4人の乗車なので、マイクロバスでもいいのではというご意見もあると思うが、10人以上乗車している便もあるため、現在は路線バスタイプの車両で運行するのが妥当ということで実施している。ただし、このままでよいという認識ではなく、両市町をまたぐ、利用者の皆様に愛されるような路線にしていくため、利用促進を計っていきたい。

那珂市のデマンド交通「ひまわりタクシー」は、路線バスではないが、那珂市民のための乗り物を水戸市に乗り入れる形で、より利便性を向上させるという取組である。路線バスだけではなく、いろいろな手法を取り、圏域の中で良い公共交通網を作り上げていきたいと思う。

【委員】

地域公共交通分野の第2回目のノーマイカーウィークの実施で、公共交通利用デーを12月25日に行うとある。一般的に、12月25日は物流は動く一方、学生は休みに入っているが、この日程に決めた理由について教えていただきたい。

【執行機関】

例年、ノーマイカーウィークの取組は、第1回を6月、第2回目を10月に実施し、第2回目は民間事業者様にも取り組んでいただき、ポスターやチラシの配布を行っていた。今年から内容を拡充するため、より多くの方に印象を持って記憶しやすい日ということで、クリスマスの12月25日に設定した。ただ、実際の効果を見ながら、公共交通利用促進の日だということが県央地域に浸透しないのであれば、別の日に設定していくことで進めていきたい。ご指摘のとおり学

生は休みに入ってしまうところもあるが、社会人は忘年会や年末のイベントに絡みやすいのではないかと、あえて12月25日に設定した。また、資料にあるように、その日だけ何か特典を得られるような仕組みを考えており、地域公共交通を促進させるために割引運賃で運行してみるなど、9市町村で検討しているところである。先ほどご意見があったウォーキングのようなイベント、そういったものもゆくゆくは絡めて、広がりのある企画にしていきたいと思う。

【委員】

(事業 No. 12 県央地域成年後見支援事業の運営支援について)

資料3の6ページに、「運営の経費について支援することによる安定的な事業の推進を図っている」とあるが、この安定的な事業の推進というのは、来年度以降書くべきことではないか。この事業は、今年度2,200万円の予算で、人件費3名分を賄っているとあるが、この3名で成年後見支援事業がどのように展開して発展し、どのような成果が得られたかということを書くべきではないか。

【執行機関】

事業費2,200万円のうち約2,100万円については、定住自立圏の事業を実施している水戸市社会福祉協議会権利擁護サポートセンターの社会福祉士3名分の人件費であり、残りの約100万円が、講座のチラシ代などの経費や、サポートセンターの運営協議会や法人後見の受任審査会の費用に充てている。

【委員】

その成果については。そこまで書き込まないと、住民は納得しないかもしれない。

【執行機関】

資料に成果は書いていないが、職員3名が担当している権利擁護サポートセンターで行っている事業が、この事業 No. 7 から No. 11 までの事業であり、それらの事業の成果が、事業 No. 12 の事業の成果ということで、ご理解いただきたい。

【委員】

資料3 4ページの事業 No. 7については非常に分かりやすく書いてあり、予算的にも少ない中でよくやっている。その事務局を賄う経費として、事業 No. 12 に費やしていると理解してよろしいか。

【執行機関】

事務局でその3名が、社会福祉士として、相談や普及啓発業務、利用支援全てにあたっております。

【委員】

それで理解したが、事業 No. 12 に一番多くの予算を使っているのだから、書き方として、事業 No. 7 を支援するためのサポートの人件費、さらに成年後見制度の普及啓発についての人件費として活用しているという書き方がよいと思う。

【執行機関】

今回は、ご指摘のようにわかりやすい説明で載せたいと思う。

【座長】

昨年度の評価では資料がある程度出ていたが、今年は半期ということで、まだ評価できないところがあると思う。次回、一年間の評価があるので、その時に詳しい数字を出していただければと思う。他にいかがでしょうか。

【委員】

懇談会に呼んでいただき、総務省の定住自立圏構想とはというところから拝見して、いろいろ考えた。弊社が取り組んでいる変わった旅行があるが、地方の人口減少・少子化・高齢化の進行をほんの少し食い止め、地域圏への人口定住を促進し、受け皿を形成するものに属していると思う。

具体的には、1年間の旅行代金を前払いしていただき、1年間ずっと旅行に行くというもの。月に3本ツアーを出し、空席があれば自由に参加できるので、参加率が高い方はずっと参加しているものである。この事業は3年続いているが、最初は、なぜ先にお金を払うのかという厳しいご意見をいただいていた。1年間の旅行代金前払いの理由は、若者を雇うためであり、いただいたお金を元に1年間契約社員として雇い、添乗員として派遣したり、旅行の提案をさせていただいている。添乗員とツアー企画者が一緒なので、お客様の生の意見を聞いて次に活かしたり、その場で旅行を変更することも可能である。実績として、1人茨城県に定住した人間がいる。その契約社員をこのツアーに乗せていたところ、参加した年配の方達がアドバイスをくださり、社員も徐々に心を開き、いろいろな情報を吸収し、自分で勉強するようになった。1年後には自ら率先して旅行の準備をし、お客様に電話をするようになった。お客様の要望する行き先が遠い場合、予算上乘務員が1人しかつけられないが、自分が免許を取ればお客様の要望する遠いツアーに行けるから免許を取らせてもらえないかということで、免許を取らせると、自らどんどん運転するようになり、お客様からもとても評価が高くなり、需要が高まった。そして、笠間市に配偶者を見つけ、定住した。今は二人目を雇っている。

そのツアーは1年間ほとんど同じお客様なので、全員知り合いで、仰々しい添乗員の挨拶は一切ない。そのまともまり感で旅行に行き、現地の方々といろいろな話をする。先日、埼玉県のある花火大会に行ったが、とても早く着いたため良い場所を取っていたら、周りの地元の方たちがどんどん話しかけてきた。いろいろ話が展開して、最後には本当に和気あいあいと仲良くなり、来年も来な、と言われながら帰ってきた。

バスとは、コミュニケーションを取るための一番良い手段ではないか。電車は公共性が強く、車内で話したりできないが、バスでは遠慮なくカラオケボックスにも使える、これが一番良い点だと思う。声を出すことを活用しながら、地域の方々そして皆さんと交流を取って、若い人と高齢者の方との交流が生まれる。先ほどの契約社員は、子供が生まれ、子供服を作るためお客様のところに通い、足

腰が悪いお客様の買い物の手伝いにも行っているようで、ここまで一緒にいると、本当に移住させたということなのではないかと、私はこれをいろいろな方にお話ししている。

せっかくの市町村の集まりなので、私は、茨城空港発着で、毎日出るツアーをやりたいと思う。産業振興分野の取組にもあるが、このツアーなども使いながら、必ず茨城空港に着いたら何かがあるというようなものやっていたら。事業費は年間 7,000 万円ぐらいかかると思うので、なかなか難しいかもしれないが、週 1 回や土日だけでもそういったものやって、土日に茨城空港に行ったら面白いらしい、ということ固定化させる。

茨城県は魅力度ランキング最下位と言うが、その情報は本当かと疑っており、相当素晴らしい県ではないかと思うが、それもネタとして、茨城に来たら楽しいと、観光地よりもコミュニケーションが楽しい、というふうに私は打ち出していきたいと考えている。

【座長】

貴重なご意見ありがとうございます、非常に面白かったと思う。他にいかがでしょうか。

【委員】

地域公共交通分野の予算で、城里と水戸をつなぐ路線の赤字の補填のような使い方をしているという話だったが、このままでは無くなるようなバスの路線はたくさんあると思う。どなたかが言っていた気もするが、学生の通学や通勤の時は大型バス、それ以外の時は小型にするようなことを全面的に進めるのはどうか。定住自立圏の予算がなくなれば他の補助金などを取りに行くのではないかと思うものがたくさんある。そうではなく、定住自立圏の事業費が出る間にどうしたら自立できる仕組みになるのか、そちらに使わなければいけないのではないか。今までやってきたことを続けても、持続不可能な仕組みを継続していくように見えて仕方がない。車を運転していると、乗客がいない大型バスが走っているのを見るが、私だけではなく、いろいろな人が、無駄ではないかと、環境負荷はどうなのかと、環境に興味がある人たちは言う。この定住自立圏における仕組みを変えませんか。先ほど――委員が言ったように、大型バスの運転ができないと路線バスを走らせられないところから、中型小型のバスなら走らせられるし案内もできるような人が入ってくるかもしれない。若い人たちをそこで育てていくことと、ぜひ環境も含めてほしいが、地域の魅力も考えられるようなバス会社の人材を育成していくと、いろいろなものが変わっていくのではないか。今までの流れのところにお金を使うのではないことをぜひ考えていただきたいし、そうでないと総務省のこの事業の意味が根本的な趣旨に沿わないのではないかと思う。

【委員】

産業振興分野で――委員から意見があったが、観光とは、初めに来ていただい

て、また来ていただいて、長期的には住んでいただくというところに繋がる、その第一歩と思う。今は、人口動態的に、外から人に来ていただくという面がある。事前の資料でマーケティング調査などがあり、ホームページにも載っているが、非常に詳細に分析されていた。それを踏まえた女性をターゲットにしたツアーを作り、しかも定住自立圏の市町村に渡ったツアーというところが面白いと思った。女性をターゲットにした広域に渡るツアーは、多分なかったのではないか。初めの一歩として非常に面白い。先ほど――委員からもあったように、ゆくゆくはいろいろなところと連携していけば、茨城県央の独自のものができるのではないか。

せっかく調査結果を分析し、それを踏まえたツアーを設定しているので、ぜひ成果を、何人来たなどではなく今後に繋がるようなところで、見ていただけるとよいと思う。

【委員】

事業 No. 15 周遊型観光の推進事業は、この金額ならば、ツアー 7 本ではなく、20 本でも 30 本でも作れるのではないか。何が当たるかわからないので、マイナーなもの寄せ集めを作るのはどうか。質も担保しないといけないが、参加者数は重要な指標なので、とにかくたくさん作って、その結果からまた考えるということで、良いものだけ集めてではなく、手当たり次第やっていただけたらよいと思った。

【委員】

先ほど――委員の話にもあったが、茨城空港は私どもの地元で、ぜひその辺を使ったいろいろなイベントを、この機会に使っていただけるとありがたい。先日、小美玉市で「ヨーグルトサミット」という全国初のイベントを行った。北海道から九州まで、4 万人を 2 日間で集め、こんなに盛り上がるとは想定外で嬉しい悲鳴だったが、そこにこの「いばらきを食べよう！！『屋形船編』&～ヨーグルトでおもてなし」ツアーで、32 名の方に参加いただいた。肩苦しく計画を立てるのではなく、このようなイベントがここであるということのを合わせながら周遊型観光を考えてもらおうと参加する方も喜ぶし、こういう形でお金を使って活動をするというのは、非常に素晴らしいことと思う。今後ともよろしく願いしたい。

【委員】

観光事業は、非常に経済波及効果の裾野が広い産業で、どの市町村も観光で盛り上げることが課題であると思う。その中で、事業 No. 15 の周遊型観光の推進事業で、いろいろな取組をやっており、特にツアーのようなものは民間業者がやるべきという意見もあったが、民間業者は利益優先ですから、今回は、地域の資源を掘り出した、非常に素晴らしい資源が盛り込まれたツアーが組まれたと思う。これをきっかけとし、今後さらに発展的になるよう検証しながらやっていければ。予算もずっと続くものではないだろうから、今後の工夫次第で、ぜひこれ

で地域が盛り上がれば、定住自立圏の本来の目的に沿った活動ではないかと考
える。

【座長】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか、よろしいでしょうか。
(「なし」との声あり)

【座長】

今回は、今年度の評価ということになるでしょう。数的な KPI も見直すか、
数値ではなく質を評価できないかということも含め、さらに見直しが必要では
ないかということで、本日は終わりにしたいと思う。

本日の議事については以上です。最後に事務局から連絡事項等ありますか。

【執行機関】

最後に、事務局から今後の予定について報告いたします。

次年度の取組における事業費等は、今後、各市町村の予算査定などを経て決定
することとなりますので、2月の県央地域首長懇話会開催後、次年度の取組内容
について決定したものを、各委員の皆様にご報告させていただきたいと思いま
す。こちらは報告事項となりますので、会議は開かずに資料送付でのご報告とい
う形を考えております。

また、今回のビジョン懇談会の日程は、来年の6月下旬から7月上旬頃に開催
し、今年度の共生ビジョンの取組実績と事業評価等につきましてご協議いただ
きたいと考えております。事務局からの報告事項は、以上です。

【座長】

事務局から、今回の懇談会日程を含む今後のスケジュールについて説明があ
りました。本日ご意見をいただいた2019年度の取組内容については、2月上旬
に開催予定の県央地域首長懇話会にて最終決定したものを、資料として送付す
るということでした。また、今回の懇談会の日程については、来年6月下旬から
7月上旬頃に開催し、2018年度の取組の実施状況及び事業評価などについて協
議したいということでした。このような進め方でよろしいか。

(「異議なし」との声あり)

ありがとうございます。今後のスケジュールについては、そのように進めたい
と思います。

最後に何かご意見のある方はいませんか。会議終了後でも構いませんので、も
しご意見等がありましたら、事務局までファックスなどでご提出くださるよう
お願いします。それでは、私の進行はこれまでとし、司会の方にお返しします。
ご協力ありがとうございました。

【執行機関】

ありがとうございました。

以上をもちまして、第7回茨城県央地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を終
了させていただきます。長時間にわたり、ご意見をいただきまして、ありがとう

ございました。